

■求人広告：落ち着いた大人求む

2006年11月27日



今、マスコミでは、子ども達のイジメの問題が話題になっています。学校の現場では、先生が何か言うと、「今のイジメじゃん」と生徒に指摘されて、先生達も戦々恐々としています。これは子ども達による先生への逆イジメです。

問題は何を苛め（イジメ）と呼び、何を戯れ（ジャレ）アイとするかです。ふざけあいの延長にイジメがあるのか、まったく異質なものなのか。人間という存在は、子供の頃や若い時は、いくどとなく度が過ぎることがあります。それを、周囲の人に、たしなめられたり、相手が傷ついている姿を目の当たりにして反省したり、後悔したりして学んでいきます。

人は生まれつき完璧ではなく、失敗から学んで大人へと成長してゆきます。

発達心理学のエリク・H・エリクソンは「遊び」を「大人になるための予行演習」と呼びました。子供社会にも、年上やガキ大将からこき使われ、序列があり、気を遣い、仲間を作り、誰かと苦しみを語り合い、集団の中で役割を演じています。子供は我慢や忍耐などを、遊びの中で学びます。そして、一人では、思うようにならない大人の社会の中で、仲間と手をとりあい、協力しながら、社会人として生きてゆくのです。

今、大人やマスコミが大騒ぎし、「イジメ」という言葉がブームになると、遊びや人生の中に存在する、人間関係の色々なストレスにも、「イジメ」というレッテルを貼ってしまい、イジメ狩りがブームになりそうで心配です。人間関係のありそうなトラブルをシラミ潰しに目の敵にしてしまうのは、冒頭で述べたように、別のイジメを作り出してしまった気がするのです。

以前にも、学校で「生徒を傷つけるから」といって、運動会で順位をつけないということがありました。生徒の中には、「僕は勉強が出来なくても、足が速いんだあ」と、自分らしさに自信を持っている子供もいます。でもその子の特徴は運動会では活かされません。順位が子供を傷つけるというなら、成績にも順位をつけないのが平等です。平等な教育と言ひながら、知識教育だけに順位をつけ、不平等な世界を作っているのです。

話はそれましたが、すべての子供達にかかるストレスをイジメとレッテルを貼ると、何気ない日常のふざけ合いですら学校生活から消え去ります。人間らしい先生は、真善美だけを語らないで、社会の不条理、悪徳、虚偽を伝え、それに対しての自己の見解を正直に語る。なぜなら、社会に出ればヘンな大人も存在し、自分の思うようにならない人生が純粹培養の子供たちを待ちかまえているからです。

現代の文明社会では、科学技術の進歩によって、冬は温かく、夏は涼しく過ごせます。千利休が目指した理想の世界が、タッチパネルに触れるだけでかなうようになりました。夜中でもコンビニエンス・ストアが24時間開いています。子供は、面倒な大人との会話をしなくても部屋に引きこもれば、携帯電話やインターネットで、気の合う世代の仲間や同じ趣味の仲間と会話をしていればよいのです。

昔の家庭では、自室に引きこもると、寒い部屋で、孤独と戦わなければなりませんでした。だから、我慢して茶の間の頑固な父親と会話しなければならなかつたのです。そこで、耐えたり、ゆずったりすることで、人は社会を学ぶものなのでしょう。

雑菌を殺すことを、「消毒」と言います。消毒の原語は sterilization で、sterile とは「生理が終り子供が生まれない女性」という意味や、「植物が生えないやせた土地」という意味です。欧米では Sterile flower(不登花 : フトウカ) と呼ばれる花があります。めしべ、おしべが退化して種子をつくらない花のことです。ステリルな年は、凶作です。一口で言えば、ステリルとは、果実が実らないことを指します。あまりシラミ潰しに、ストレスを減ぼすと、人生の中で、苦境からの学びも、悲しみから、喜びへ向かう感動もありません。僕は、生きることの醍醐味を感じない平坦な人生になりはしないかと思うのです。

雑菌を殺すことは、悪いことではありません。公衆衛生の進歩により病気は激減しました。でも、過度な消毒は、生命の多様性や可能性も失わせてしまいます。

芸術も消毒された世界では生まれません。なぜなら、放送禁止用語をつくり、ワイセツ本にマジックを塗り、精神病院では隔離病棟をつくり、死を病院に追いやり、老いのプロセスを老人ホームに閉じ込めました。

私たちは、普通であること、個性がないことが安心なのかもしれません。

過度な排除は歴史に学べば危険な社会をうみだします。ローマ時代のキリスト教徒虐殺。
魔女狩り。スターリンの大粛清。^{たいしゆくせい}ヒットラーのユダヤ大虐殺。中国の天安門事件。北朝鮮などの恐怖政治。

日本の歴史を振り返っても、生類憐みの令。^{しようるいあわれ}踏み絵のキリストン狩り。安政の大獄。戦争を反対する者への国賊狩り。

度を過ぎた消毒は、体制を守るつもりが逆に体制を崩壊させ、人々の自由を奪い、国家すら亡ぼす可能性を宿しています。

僕は願わくば、子供達には多少のストレスがある環境の中で育ってほしい。もちろん、イジメの問題は簡単には結論が出せません。ただ、個々のイジメを問題にするのではなく、もっと広い視野を持って、この社会をとらえる必要があると思います。ただヒステリックに大人たちが大騒ぎすると子供たちが混乱します。僕は、イジめるほうの子供も、イジメられるほうの子供も救いたいと考えます。だから、イジめる側も、イジメられる側も、もっとストレスに耐える能力を身につけてほしいのです。

勉強や学校の先生に腹が立って、イライラするから、誰か弱いものをイジめるのではなく、他に正義の刃を向ける方法だってある。その刃が、間違った社会を変えられる原動力になることだってあるのです。

また、つらい時には、問題から全面逃避する『自殺』ではなく、誰かに相談するとか、先生ではダメなら、親や、相談所に話してみるとか、あらゆる解決方法にチャレンジしてほしいのです。それが、きっと大人社会に入った時にも、役に立つと感じるからです。

僕は決してイジメによって自殺する子は弱いと言っているのではありません。人は誰にでも、「それだけは言ってほしくない」「言われたくない」という、誇りがあります。それを言われたらもう、お仕舞いだ。もう許せない。というプライドを誰もが持っています。

だから、そのプライドを守るため、その自分自身の誇りを殺さないために、人は死を選ぶこともあるのです。だから、逃げではなく、自殺も、誇りを守るため、プライドを生かすための選択なのでしょう。それほどに、人は自分のプライドが大切なのです。

この自分のプライドが、いかに大切なのは、カウセリングの世界でも常に感じています。恋人との別れも、夫婦の離婚のキッカケも「あれだけは、絶対言ってほしくはなかった」「してほしくはなかった」ということがあります。それは、自分の尊厳が壊れた心の音です。自己の中で心が大音響で壊れてゆきます。すごく悲しい音です。だからこそ、それだけは絶対にされたくないということを、日常くり返されると人は絶望的になります。その苦しみは、筆舌に尽くしがたいものでしょう。

でも、僕はそれを理解しながらも言いたいのです。自分で死を選んではいけないと・・・自分のプライドのために死んではいけないと。人は誰かのために命を交換することもあるけれど、自殺は誰も活かさない。自分も周囲も・・・・僕がインディアンや自然の中で学んだもの、それは、「自然界の死は、何かを活かすものでなくてはならない」ということだった。だからこそ、苦しくても、自殺以外の方法を探してほしい。石にかじり付いても生きていてほしい。

僕は、家族に自殺された経験を持つ者として、自殺だけは選んでほしくないです。自殺は無意識の領域では、復讐だからです。意識する、しないにかかわらず、自殺は誰かに「一生、私のことで苦しみなさい」という復讐になります。イジメた側だけではなく、自殺した側の家族も友人も苦しむのです。「何もしてやれなかった」と・・・・「救えなかった」と・・・・だから、イジメられた側が、今度は誰かを苦しめることになるのです。イジメられた側が、誰かをイジめる側に変わるのは悲しいことです。

誰もが子供の時には、何で人が傷つくかを知りません。赤ん坊は、自分が泣いたら周りが「困る」とは知らないで泣いているのです。人は知らないで生まれて来ます。だからこそ、僕達は予行演習が必要なのです。それが、「失敗の時代」です。誰もがたくさんの失敗をくり返して、今の大人になっています。失敗を一度もしたことがない大人なんていません。

若い時は誰もが、この時代を生きています。だから、それを導く落ち着いた大人たちが必要なのです。子供には、大人のサポートも必要不可欠です。大人たちが、子供を気にしてあげることが大切なのです。イジメなのか、ジャレアイなのか。その現場を見ていなかつた大人たちは、あわてて誤魔化したり、申し訳なさから過剰に動きすぎて、「正しい」「間違い」と二元論で子供の心をジャッジしてしまっています。どこまでがジャレアイで、どこまでがイジメなのかは単純に判定するには難しいのです。過敏性の子供は、机の周りを友人が走り回るだけで、イジメられたと訴えます。受動的攻撃性のある子は、ノロマと言われると、わざと行動をのろくして、周りの子供をイライラさせ周囲の子供を怒らせる上で、受身的に攻撃をする子供も存在します。

人の心は単純ではありません。

正しさの中にも愚かさがあるし、愚かさの中にも、優しさもある時があります。だから、人の行いを「良い」とか「悪い」とか、すぐに判断することは危険なのです。真剣に物事を考える大人は、すぐに誰かを良い、悪いと攻撃したりはしません。だから、しっかりと見ていることが必要なのです。

今の時代、大人が大切なことを伝えていません。それは、自分にしてほしくない事は、他人にはしないということです。

こうなると、私たち大人の生き方が問題になります。僕達は自分にしてほしくない事を、人にしていないかを・・・・僕たち大人が問われています。なぜなら、子供たちは大人たちを写しだす鏡なのだから。

